

《新刊紹介》

野地潤家著

『大村はま国語教室の探求』

本書は、野地潤家先生が、大村はま国語教室について論じられた一二篇の論考を集成したものである。

野後先生の「探究」の視点は、学習記録や学習者の回想を資料として学習者の側に及んで多角的に設定されており、それが学習者重視を大きな特徴とする大村はま国語教室の実態を照射することに効果的に作用し、それぞれの論考に広がりとお興行きを与えている。

また、野地先生は、大村先生の国語教室が「学習者としての大村はまがかつて熱心に学んだ国語教室をその母胎としていることを見過ごしてはならない」と述べられ、大村先生自身の国語学習史に大村実践の源流を求められている。さらに大村先生の女学校時代の作文から論が始まる諏訪時代の作文指導の個体史研究などでは、戦前の高等女学校時代の実践が戦後の中学校実践に連なるものとして取り上げられ、多様な資料が効果的に駆使されつつ精細な考察が展開される。そこには野地先生独自の問題意識をうかがうことができるとともに、今後の大村はま国語教室研究の取り組みべきひとつの課題が、読者に対して示されている。

(A5判、二二九ページ、一九九三年九月五日、

共文社、三〇〇〇円)

(河野 智文)